

Journal of Regional Development Studies

Vol.20, March 2017

Contents

[Contributed Papers for the Special Edition]

- Protection of Cultural Heritage: Stage 1. Legal System
— Seminar under the Agreement between Toyo University and University of Florence
.....Chieko NAKABASAMI 1
- Seminar title: Protection of Cultural Heritage
Seminar under the Agreement between Toyo University and
University of Florence, Italy-September 8, 2016
..... Sara LANDINI, Marco RIZZUTI,
Ramon ROMANO and Chieko NAKABASAMI 2
- Cultural Heritage Protection. An Overview Sara LANDINI 3
- Cultural Heritage and Inheritance Law Marco RIZZUTI 7
- Cultural Heritage and Copyrights' Experiences in Italy Ramon ROMANO 19

[Contributed Papers]

- Volunteer Activities at Toyo University for Nepal Quake in 2015 Susumu NEJIMA 25
- A Study of Elementary Level Learners of English Kaoru SATO 37
- Effectiveness of Student-led Field Study (SFS) Kozue KASHIWAZAKI 51
- Reflection on Overseas Study Programs under "Global Human Resource Development Program" of
Toyo University: Study on Implementing Rubric Evaluation as A Tool to Improve Programs
..... Yuko KOBAYAKAWA 59
- "The State of the Nation" Questioned Based on the Existence of
Children with Japanese Roots Who Possess Multiple Nationalities Satoko TAKEDA 67
- On the Idea of <soul>(psychē) in the New Testament Yoichi NAKAJIMA 83
- Arrival of Human Rights in Papua New Guinea :
A Case Study Based on the Questionnaire in Manus Island Jun BABA 93
- Analysis on Supply Cost and Benefit in Provision of Public Goods
— Free Riders Cause Collective Failure — Kenji YOSHINAGA 105
- [Technical Papers]
- Japanese History as Maritime Perspective 2 Yoshimitsu NISHIKAWA 131

Published by
The Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

国際地域学研究

第20号
2017年3月

【特集論文】

- 特集：東洋大学・フィレンツェ大学歴史文化遺産保全プロジェクト
～法制度編 中挟 知延子 1
- Seminar title: Protection of Cultural Heritage
Seminar under the Agreement between Toyo University and
University of Florence, Italy-September 8, 2016
..... Sara LANDINI, Marco RIZZUTI,
Ramon ROMANO and Chieko NAKABASAMI 2
- Cultural Heritage Protection. An Overview Sara LANDINI 3
- Cultural Heritage and Inheritance Law Marco RIZZUTI 7
- Cultural Heritage and Copyrights' Experiences in Italy Ramon ROMANO 19

【一般論文】

- 東洋大学におけるネパール復興支援 子島 進 25
- 英語初級者の英語力とは 佐藤 郁 37
- 学生主導型フィールドスタディ科目の課題と展望 柏崎 梢 51
- 東洋大学「グローバル人材育成推進事業」としての海外研修のリフレクション
—海外研修改善・向上の手法としてのルーブリック評価利用に関する考察—
..... 小早川 裕子 59
- 複数国籍の日本ルーツの子どもたちの存在から問う「国のあり方」 武田 里子 67
- 『新約聖書』における「魂」(psychē)の観念
—「内面」の誕生の思想史への一試論— 仲島 陽一 83
- パプアニューギニアにおける人権の認知度
—マヌス島の事例— 馬場 淳 93
- 公共財の供給コストと便益に関する考察
—タダ乗りは協調行動の失敗の誘因となる— 吉永 健治 105
- 【研究ノート】
- 海民の日本史2
日本神話に見られる海洋性 西川 吉光 131

東洋大学国際地域学部

国際地域学研究

第20号

東洋大学国際地域学部



東洋大学

東洋大学国際地域学部国際地域学科紀要 編集規定

第1条（目的）

東洋大学国際地域学部紀要『国際地域学研究』（以下「紀要」という）は、国際地域学部の教育と研究を促進し、教員の研究成果発表の場として、さらに「国際地域学」のディシプリン形成とその発展に寄与することを目的とし、関連の論文、研究ノート、書評、研究展望等を掲載発表する。

第2条（投稿資格）

「紀要」に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 国際地域学部の専任教員
- (2) 国際地域学部の非常勤講師
- (3) その他「紀要」編集委員会が適当と認めた者

第3条（申込みと締切）

執筆申込みと締切期限は、年1回発行の場合は次の各号のとおりとし、年2回発行の場合は、その都度別に定める。

- (1) 執筆計画を把握するため、別に定める「紀要執筆計画アンケート」を7月末日までに集める。
- (2) 原稿提出は、12月1日までとする。
- (3) 上記(1)、(2)の提出先は、「紀要」編集委員会とする。

第4条（原稿の種類）

この「紀要」に投稿できる原稿の種類は、次のとおりとする。

種 類	内 容
査 読 論 文	オリジナルな研究成果をまとめたもの（査読付）
論 文	オリジナルな研究成果をまとめたもの
研 究 ノ ー ト	研究の中間報告、覚書及び新しい研究方法についての報告、翻訳
書 評	書籍、文献の批評、紹介
研 究 展 望	それぞれの研究分野の成果をまとめたもの、研究動向を展望したもの
学 部 活 動 記 録	当該年度の学部活動を報告する内容のもの

第5条（執筆要領）

原稿の執筆にあたっては、別に定める「紀要」執筆要領と「査読」要領による。

第6条（補筆と修正）

「紀要」編集委員会は、必要に応じて、著者に補筆や修正を求めることができる。

第7条（原稿の返却）

投稿された原稿は、著者に返却する。

第8条（抜刷り）

著者には抜刷りを50部配布する。

第9条（配布先）

「紀要」の配布先および電子媒体を通じての公開先は、編集委員会が別に定める。なお、「紀要」

は東洋大学学術情報リポジトリに登録され、公開される。

第10条（原稿料など）

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。査読者に対して謝礼を行う。

第11条（改正）

この規定の改正は、国際地域学部教授会の議を経て「紀要」編集委員会が行う。

附則

この規定は平成21年9月3日から施行する。

この規定は平成25年3月8日に改正した。

東洋大学国際地域学部国際地域学科紀要 原稿執筆要領

平成9年6月26日 学科会議了承

1. 使用言語および使用ソフト

使用言語については特に制限はしない。ただし、印刷等に当たり特別の技術その他の事情を有する言語については、事前に編集委員に相談すること。

原稿は原則としてワープロ打ちとする。使用ソフトはウィンドウズ系一太郎またはMSワードとするが、それ以外のソフトを使用するときには事前に編集委員に届け出ること。

2. 執筆者

投稿資格は本学部の専任教員および非常勤講師とするが、共著者がいる場合は氏名の右肩に*印を付けて示すこととする。

3. 要旨およびキーワード等

原稿の本文が日本語の場合には、英語の表題、著者名、要旨およびキーワードをつけること。原稿の本文が英語またはその他の言語の場合には、各言語の要旨、キーワードの他に、日本語の表題、著者名、要旨およびキーワードをつけること。

4. 本文および脚注・注

本文は原則として横書きとし、英語の場合はダブルスペースで記述する。原稿用紙のサイズはA4サイズを標準とする。長さは日本語の場合はA4用紙30枚を超えない程度とする（いずれの場合も図表を含むものとする）。他の言語の場合もこれらに準ずる。以上の内容に依りがたい時は編集委員と協議して決めることとする。

脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは当該ページの下部に記入する。各章毎、あるいは本文末に注をまとめる場合も、注番号は当該箇所の右肩に一連番号で示すこととする。

5. 参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。

(1) 和文の参考文献（翻訳を含む）の場合

1) 雑誌

著者名、表題、雑誌名、巻数（号数）、（刊行された西暦年）

2) 単行本

著者名、書名、発行所、ページ数（号数）、（発行された西暦年）

3) 編著書の中の1章またはシリーズの中の1巻

著者名、章名、編者（または監修者）名、書名、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）、または著者名、書名、編者（または監修者）名、シリーズ名、第XX巻、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）

4) その他の参考文献については、上記1)、2)、3)に準ずる。

(2) 欧文等の参考文献の場合

上記(1)に準ずる。ただし、書名などについては、主な言語(Word)、固有名詞などは大文字で書き始めること。

6. 図表

- ① 図は著者の作成したものをそのまま印刷するので、黒インクで浄書(トレース)すること(ワープロ印刷でも可)。トレース等が困難な場合にはトレース料は自己負担とする。
- ② 図は、なるべく白紙に黒インクで大きめに書くこと。また、各図は一枚毎に別々の用紙に書くこと。
- ③ 図中の文字数等は写植されるので、正確に書くこと。大文字と小文字、イタリック体、ゴシック体などの違いにも注意すること。
- ④ 図(写真を含む)および表には必ず名称をつけること。
- ⑤ 図表の番号は、それぞれが本文に現れる順にしたがって、通し番号でつけること。また、本文中の各図表の挿入箇所は明確に指示すること。
- ⑥ 各図表の作成に使用した資料あるいは文献は、必ず注として明記すること。

7. 原稿の提出

原稿は本文のハードコピー1部およびFDに収録したもの(ワープロのフォーマット形式およびテキスト型式の両方)で編集可能なものに、それぞれ一枚ずつ別々の用紙に作成した図表をつけて提出するものとする。

東洋大学国際地域学部紀要編集委員会

委員 芦野俊宏

中島晶子

藤稿亜矢子

国際地域学研究 第20号

平成29年3月27日発行

編集・発行 東洋大学国際地域学部
〒112-8606
東京都文京区白山5-28-20
Tel (03) 3945-7683

印刷 蔦友印刷株式会社
〒113-0001
東京都文京区白山1-13-8
